

## 令和3（2021）年度普通会計決算（見込）について〔概況〕

### 1 決算規模

新型コロナウイルス感染症対策の実施等により、歳入歳出ともに3年連続で前年度決算額を上回った。歳入歳出ともに初めて1兆円を超え、過去最大の規模となった。

・歳入	1,055,481百万円	対前年度	+66,691百万円	比	+6.7%
・歳出	1,029,188百万円	対前年度	+64,485百万円	比	+6.7%
*歳出のうち新型コロナウイルス感染症対策関連経費					
	237,723百万円	対前年度	+65,304百万円	比	+37.9%

### 2 決算収支

実質収支は3年ぶりに前年度を下回り、単年度収支は赤字となった。

・実質収支	11,434百万円	（前年度	15,563百万円）
・単年度収支	▲4,129百万円	（前年度	7,480百万円）

### 3 特徴

- ① 県税収入は4年ぶりに増加。  
県債は減収補てん債や災害復旧事業債の減等により発行額が減少。

自主財源の大宗を占める県税収入は、コロナ禍からの企業業績及び消費活動の回復等により、法人事業税や地方消費税が増加するなど、前年度比+5.3%、+12,833百万円と4年ぶりに増加した。

地方交付税は、臨時財政対策債償還基金費の創設等による普通交付税の増などにより、前年度比+24,343百万円と大きく増加し、普通交付税に臨時財政対策債を加えた実質的な交付税も、前年度比+47,720百万円と大きく増加した。

県債は、減収補てん債や災害復旧事業債の減などにより、前年度比▲474百万円と発行額が減少した。

② 医療福祉関係経費は引き続き増加。  
投資的経費は普通建設事業費が6年連続で増加した一方、災害復旧事業費は大幅に減少。  
また、新型コロナウイルス感染症対策の実施により補助費等や貸付金が増加。

医療福祉関係経費は、高齢化の進行等により増加した。

投資的経費のうち普通建設事業費は、宇都宮東警察署整備などの単独事業費の増により、前年度比+0.4%と6年連続で増加した。一方、災害復旧事業費は、令和元年東日本台風に伴う復旧経費の減等により、大幅に減少した。

新型コロナウイルス感染症対策の実施に伴い、補助費等は医療機関や事業者への協力金支給等により増加し、貸付金も商工制度融資が増加した。

③ 経常収支比率は6.3ポイント改善。

経常収支比率は、医療福祉関係経費などの支出は増加したものの、県税や実質的な交付税などの収入が大きく増加したことにより、前年度に比べ6.3ポイント減少の88.8%となった。